

広告もアートも日本もアメリカも、飛び越えてしまったフォトグラファー

HASHI[橋村奉臣]展

『一瞬の永遠』&『未来の原風景』



2006 9/16(土) — 10/29(日)

東京都写真美術館 (恵比寿ガーデンプレイス内) 3階展示室

Romantic, The Street of Ancient Comedy,
Paris -黄昏- 1992 『未来の原風景』より



広告もアートも日本もアメリカも、飛び越えてしまったフォトグラファー

HASHI[橋村奉臣]展

『一瞬の永遠』&『未来の原風景』



2006 9/16(土) — 10/29(日)

東京都写真美術館 (恵比寿ガーデンプレイス内) 3階展示室

Cheers - 喜び 1982 『一瞬の永遠』より



HASHI (橋村奉臣) 展『一瞬の永遠』&『未来の原風景』は、アメリカで「HASHI」の名で呼ばれ、その驚異的な技法で、アメリカの広告写真界において不動の地位を築いているニューヨーク在住の写真家、橋村奉臣の今日までの軌跡、ならびに今後の新たな方向性を紹介します。

本展は2部構成になっており、『一瞬の永遠』ではニューヨークで写真家として不動の地位を築いたアクション・スティル・ライフとスティル・ライフの代表作から約40点を紹介。1980年代初めに、超高速のスピードライトで、肉眼では捉え難い瞬間をとらえ、オブジェの移行を永遠の時間の中に凍結させる。超現実ともいえる橋村の作品が、熾烈な競争で名高いニューヨークの広告業界において高く評価されました。橋村は、この独特なスティル・ライフ写真の技法を「アクション・スティル・ライフ」と名づけ、まさに水のように流動的なものを瞬時に捉えた代表的な作品シリーズとして位置づけています。

『未来の原風景』では、橋村のオリジナル「HASHIGRAPHY」《ハシグラフィー》の作品約60点を紹介します。ここでは、写真と絵画を融合させた作風の中に、橋村のファイナ・アーティストとしての新たな可能性と独特の時代やモノに対する価値観が表現されています。変わりゆく時の流れ、止まる事のない時間。漠然とした不安と期待、風化していくことへの諦観。しかし、私たちが未来に伝えなければいけない「現在」とは、何だろうか。私たちの心の中に残り、消し去る事のできない軌跡。激動するこの時代の中でさえ、決して、忘れる事

のない過去からの遺伝子。それは私たちの手で、次の世代、また次の世代へと引き継がれていく。時代不詳なモノトーンな作風からは、橋村の「今から千年後、西暦3000年の未来社会で生活する人々の目に、現代がどう見えるか」という、現在の存在意義に対する、強いメッセージが込められています。

写真家・橋村奉臣の人生と芸術に対するあくなき好奇心と情熱によって、時代を遡って深みを増していく作品群は、鑑賞する人々の心に強く訴えかけていくことでしょう。そこには自然豊かな日本で育まれた感性と、めまぐるしく変化する先鋭都市ニューヨークで培った高度な技術力との融合が感じられます。写真と共に生き、常に新たな挑戦を続ける、橋村奉臣の鋭い感性をご堪能ください。

会期中には、作家自身ならびにゲストによる、撮影秘話やニューヨークの写真業界事情、創作の基盤となる作者の思想等を盛り込んだ興味深いトークショーの開催も予定しています。

第1部『一瞬の永遠』
＜スティル・ライフ＞＜アクション・スティル・ライフ＞
代表作約40点展示

『一瞬の永遠』 - a moment's eternity -



*01



*02



*03



*04

*05



*06



*07



*09

『未来の原風景』 - future déjà vu -

第2部『未来の原風景』
＜ハシグラフィー＞写真と絵画の融合による
最新作約50点展示



*08

- *01 GRUNGY CHRISTMAS SETTING - クリスマスの思い出 1992
- *02 SPOILED COMPANION - 一本に交われば赤くなる 1996
- *03 SHATTER! - ガラスの叫び - 瞬の永遠! 1993
- *04 SUBMERSION - 潜水 2000
- *05 FOUR STONES IV - フォース・ストーン IV 1986
- *06 Progressions, Paris - 前進 - パリ 1989
- *07 Winged Victory of Samothrace - サモトラケのニケ - 勝利の女神 - 1991
- *08 François Lachéze and Client, Reims - フランソワ・ラシェーズと顧客、ランス 1992
- *09 The Kiss, Auguste Rodin - 接吻、オーギュスト・ロダン 1987

写真は全て©HASHI

プロフィール

橋村奉臣 (はしむら・やすおみ)

1945年大阪府茨木市生まれ。アメリカで「HASHI」の名で呼ばれている橋村奉臣は、少年の頃よりほとんど独学で写真を学び、自らの可能性を試すべく1968年に単身渡米。1974年HASHI STUDIOを設立。以来、クリエイティブの水準が極めて高く、かつ熾烈な競争で知られているニューヨークの広告業界において、常に第一線で活躍、その力量は高く評価されている。広告の原点、「商品が主役」であることをモットーに、スティル・ライフの分野で、卓越したHASHIスタイルを確立。加えて1980年代前半より、肉眼では捉え難い10万分の1秒の世界をとらえた独自の技法、「アクション・スティル・ライフ」で一世を風靡し、広告業界において、その地位を不動なものにした。

詳細ホームページ

<http://www.hashi-ten.com>

ハローダイヤル 03(5777)8600

主催: 日本経済新聞社/HASHI展実行委員会
共催: 東京都写真美術館
後援: 東京アメリカンセンター
協賛: 富士写真フイルム/アトーン/資生堂/TAKE-REISHIMED/ロフト/SUNデザイン研究所/出光興産
協力: K2

開館時間: 10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで。
休館日: 毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日、9月18日(月・祝)は開館、9月19日(火)は特別開館、10月9日(月・祝)は開館、10月10日(火)は休館。

観覧料: 一般 800円(640円)/学生 600円(480円)/中高生・65歳以上 400円(320円)
※20名以上の団体の方は()内割引料金となります。
※小学生以下及びお体に障害をお持ちの方とその介護者は無料です。

交通機関: JR恵比寿駅東口より徒歩7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。
※当館には専用の駐車場はございません。お車でのご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用下さい。



東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

<http://www.syabi.com>

イベントのお知らせ

- アーティスト・トーク
日時: 9月30日(土) 2pm～
会場: 東京都写真美術館1階ホール 出演: 橋村奉臣(写真家)
ゲスト: 立松和平(小説家)
定員: 190名(先着順)
HASHI(橋村奉臣)展覧会観覧券をご提示下さい。講演後、サイン会。
- ギャラリー・トーク
日時: 10月14日(土) 3pm～ ゲスト 飯沢耕太郎(写真評論家)
会場: 東京都写真美術館 3F
※作家本人によるギャラリートークは随時

※内容は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

出版情報

- 写真集
『STILL LIFE - a moment's eternity- 『一瞬の永遠』』
ARTONE(アトーン)
『HASHIGRAPHY - Future Déjà Vu- 『未来の原風景』』
ARTONE(アトーン)
- 書籍
『十万分の一秒の永遠』立松和平著/写真: HASHI(橋村奉臣)
ARTONE(アトーン)